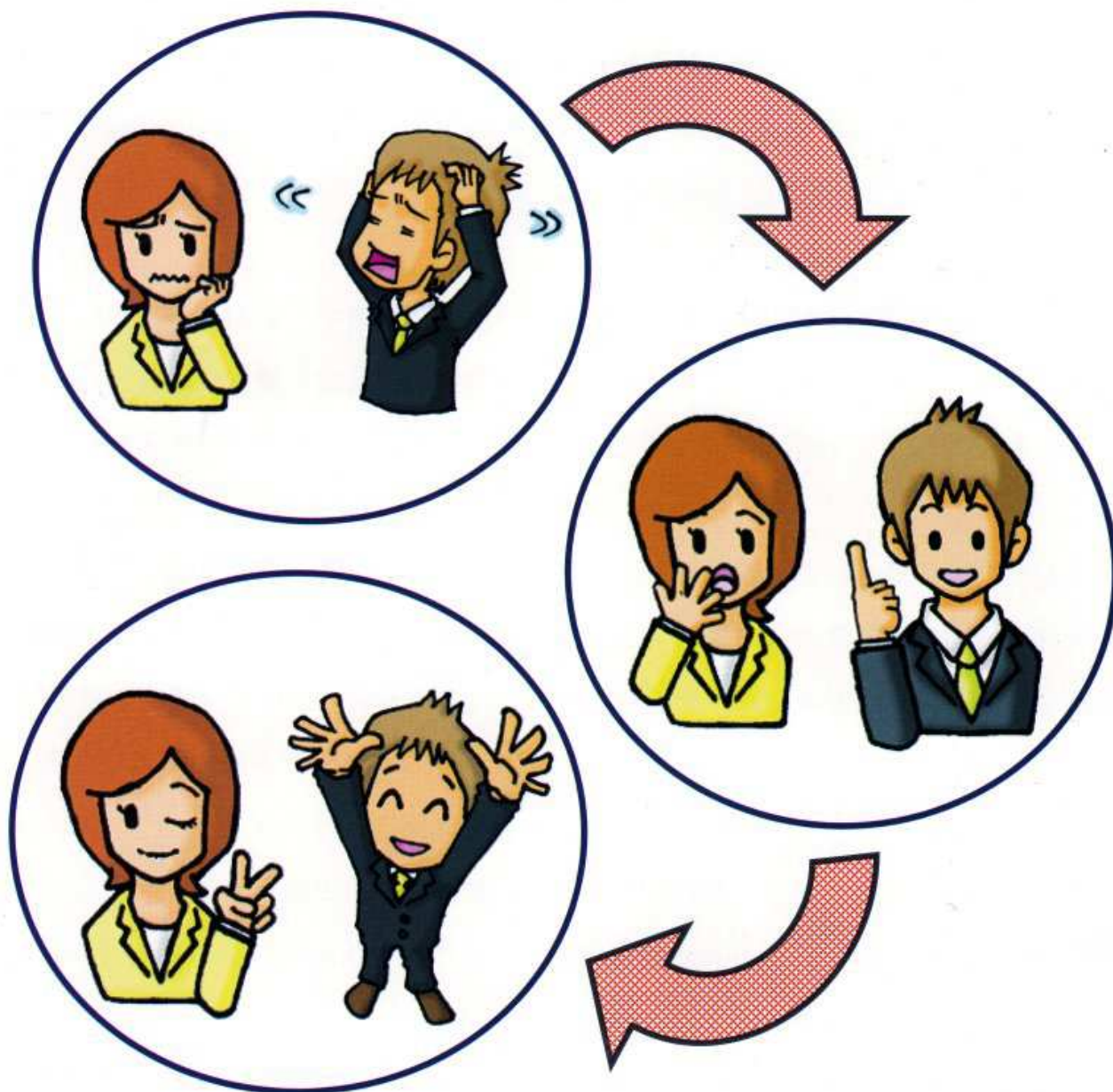


# 学校評価アンケートの集計



広島市立城山北中学校

学校評価委員会

I 評価アンケート回答率 (%)

	1年	2年	3年
生徒	96	86	87
保護者	75	51	63

【考 察】

- 2・3年生の生徒の回答率が低い。欠席生徒が多い、暮会に出ることができない生徒がいるという学年実態を反映している。
- 多くの保護者の方にご協力をいただいたが、特に2年生の保護者の回答率が低い。プリント類が保護者に届いていない等の課題もあるのではないかな。

II 確かな学力の向上

1 授業規律・規範(着ベル・あいさつ等の規律の確立、机・椅子の整頓、教室美化など学習環境整備)の確立

【結 果】

生徒は、「着ベルを守っている」について、肯定的な回答が約95%、「きれいで整頓された教室で授業を受けている」について、肯定的な回答が約80%である。教員は、「こうした授業における学習環境整備・授業規律に関して指導・評価している」について、肯定的な回答は100%である。

【考 察】

○生徒は、概ね着ベルについて意識して取り組んでいる。教職員も取組に対する意識の高揚が見られる。本年度一年間、全校で取り組むこととして教室掲示した成果が着ベルには出ていると考えられる。

○生活委員会(生徒会)が中心になって着ベル推進に取り組んだ。

●着ベルについては、学年によってはまだ生徒の意識の差がある。また、未だ全体的に自律的ではない。引き続き、生徒の意識の高揚を図るためにも生徒の取組の充実を図っていく必要がある。

●授業のあいさつも、全体的に声が出にくくなっている状況がある。また、学級によっては、教室が雑然としている、カバンがロッカーに入れられていない等教室環境整備が不十分な状況も見られる。再度、**全学級の授業規律の掲示物の確認、担任による指導、各授業担任による授業前の指導等、全教職員が共通認識を持って粘り強く指導の継続を図る必要がある。**

2 授業の「ねらい」の明示

【結 果】

生徒は、「授業のねらいがわかって授業を受けている」について、肯定的な回答は全体として約75%である。中でも2年生は、約82%である。教職員は、「授業のねらいを授業はじめに明示している」について、肯定的な回答は約70%であり、生徒の方が若干肯定的な回答が多い。

【考 察】

○「ねらい」のマグネットを全教室に設置することで教職員の意識も高まってきている。

●結果から、教職員が「ねらい」を口頭だけで伝えている場合もあるということが伺える。また、「ねらい」を提示していない授業もあると見受けられる。**全教職員が、授業の中でのマグネットの活用を定着化させ、視覚的に「ねらい」を提示する授業づくりを図る必要がある。**

3 協同学習(ペアやグループで生徒同士が助け合ったり協力したりする学習活動)の取組

【結 果】

生徒は、「どの授業でもペアやグループで助け合ったり協力したりして学習する場面がある」について、肯定的な回答は約80%であり、保護者は、肯定的な回答は約76%である。教職員は、「ペアやグループによる協同的な学び合いの場を設定している」について、肯定的な回答は約67%に留まる。

【考 察】

○多くの生徒、保護者は、授業の中で協同的な学び合いの場が設定されていると受け止めている。また、授業評価アンケートからも、生徒はこうした協同的な学び合いの場を大変楽しみにしているし必要ともしている。

○そうした生徒のニーズに応えるべく、教職員も、研修(授業研究)を積み重ねることで、意識は少しずつ高まっており、今後、益々授業の中で協同的な学び合いの場面が増えていくことが期待できる。

○今年度は、校内授業研究会を開き、全教職員で授業観察を行い、研修を深めることができた。

●私語や集中力の乏しさといった学年(学級)の生徒実態から、協同的な学び合いの場が仕組みにくい場合がある。授業展開を工夫したり、単元によっては短い時間でも可能な時には積極的に取り入れたり、教科授業以外にも話し合い活動等の場面を設定したりして、協同的な学び合いの場を多く設定し、**実践を進めていく必要がある。**

●教職員はさらに、**生徒同士の良質な人間関係づくりと学力向上を図る協同学習について研修を積んでいく必要がある。**

●協同学習の推進を図るために、**各学級で4人グループの席の配置図を用意する等の工夫をしていく。**

## 4 わかる授業づくりの推進

### 【結果】

生徒は、「どの授業もわかりやすい」について、肯定的な回答は約64%に留まるが、教職員は、「わかる授業を心がけて工夫している」について、肯定的な回答は約95%であり、生徒の受け止めと教師の意識との間に差がある。

### 【考察】

●教職員は、わかる授業づくりに努めてはいるが、学年が上がるにつれて教材の難度が高くなるためか、生徒の「わかりにくい」という評価が増えている。こうした生徒の評価を謙虚に受け止め、教科会や学年会において、授業について交流し合う等授業づくりについて意識して取り組んでいく必要がある。また、わかる授業づくりのため、協同学習の推進と研修を積み重ねていく必要がある。

## 5 自主学习ノートの活用・家庭学習の定着

### 【結果】

生徒は、「自主学习ノートを活用して、一日1時間以上家庭学習している」について、肯定的な回答は約56%であり、保護者も同様に、肯定的な回答は約55%に留まっている。教職員は、「自主学习ノートを活用して、一日1時間以上の家庭学習の定着を図っている」について、肯定的な回答は約81%であり、生徒の実際の取組と教職員の取組にはまだ差がある。

### 【考察】

○半数以上の生徒には自主学习ノートの活用による家庭学習が定着している。

●学年が上がるにつれて、自主学习ノートを活用した家庭学習の取組時間数や内容には課題がある。毎日担任が呼びかけたり、授業内容と連動した課題(宿題)を与えたり、試験対策を含めて取り組ませたり、試験週間にキャンペーン活動をして成果を確認したりする等、生徒のさらなる励みとなるように指導・助言を継続していく必要がある。

## Ⅲ 豊かな人間性の育成

### 1 清掃活動など校内環境美化の推進

### 【結果】

生徒は、「まじめに清掃活動に取り組んでいる」について、肯定的な回答は全体として約80%である。中でも3年生は、約88%である。保護者は、「校内は、清掃活動や環境美化の取組が行き届ききれいである」について、肯定的な回答は約88%である。教職員は、「日々、生徒と一緒に清掃に取り組むなど校内環境美化に努めている」について、肯定的な回答は約91%である。

### 【考察】

○学年によって差はあるが、多くの生徒は、清掃時間に一生懸命に取り組んでいる。

○生徒会が、清掃時間に曲を流しているため、片付けや反省会をする時間の目安になっているので続けていく。

●まじめに取り組む生徒とそうでない生徒が分かれている。教職員や班長のリーダーシップの発揮、反省会の徹底、担任と連携した清掃指導の充実、点検活動の取組の推進、奉仕活動の大切さに気付かせる心の育成など日々の取組を教員が意識して取り組んでいく必要がある。

●汚れた時などその都度きれいにする(させる)等してきれいな状態を維持していく必要がある。また、生徒会(保健委員会)の美化活動について、その取組のねらいと内容を、まず教職員(担任)が理解して受け止め、運動して効果的な取組になるようにしていく必要がある。

●教職員は、暮会後の教室整備を徹底して、「きちんとした状態があたり前である」というように取り組んでいく。

### 2 あいさつの励行

### 【結果】

生徒は、「授業の時間も含めて、あいさつをしている」について、肯定的な回答は約87%である。保護者は、「子どもたちはよくあいさつをする」について、肯定的な回答は約78%である。教職員は、「自ら生徒に対してあいさつをするとともに、あいさつについて生徒に指導している」について、肯定的な回答は約86%である。

### 【考察】

○授業以外の場面で、自らさわやかなあいさつを交わすことができる生徒が多い。

●授業以外の場面でも、親しい間柄ではあいさつができるが、いろいろな人に対して自らあいさつができない生徒も目立つ。3年生は、部活動を引退しそうした傾向が見られる。部活動で培ったあいさつが、人と人とのよりよいつながりをつくったり維持したりしていくための人間関係の規範としてのあいさつとして定着化していないのではないかという課題がある。また、学年、学級によって差はあるが、朝のあいさつ運動でも、あいさつの声が出にくい生徒が目立つ。生徒会活動としてあいさつキャンペーン活動を実施したり、教職員が人とのよりよい関係をつくっていく・維持していくためのあいさつの大切さについて、生徒の心情(感情)に訴えかけながら指導をしていく必要がある。

●授業場面では、全体的にはじめと終わりのあいさつができにくくなっている。教師がそうした状況をそのままにせず、教師が率先してあいさつをするとともに、やり直しをさせる等の指導を継続していく必要がある。

### 3 教育相談の充実

#### 【結果】

生徒は、「先生は自分のことをわかってくれようとしている」について、学年の差はあるが、肯定的な回答は全体としては約70%である。中でも1年生は、約79%である。保護者は、「学校は生徒のことを理解しようとし、生徒との温かい関係づくりに努めている」について、肯定的な回答は約77%である。教職員は、「生徒との共感的な生徒理解と温かな関係づくりに努めている」について、肯定的な回答は約86%である。

#### 【考察】

- 教職員の取組と生徒や保護者の受け止めには差がある。このことは、7月に実施したアセス(学校適応感尺度)の教師サポートの生徒の受け止めの結果を見てもわかる。**生徒の困り感や不安感(教育的ニーズ)を共感的に受け止め、生徒の受け止め方やコミュニケーションの取り方にも留意しながら、日々、生徒の思いを傾聴し温かな声かけ等に努めていく必要がある。**
- 教育相談月間での生徒との面談や日頃の気になる生徒の言動について、教職員相互の情報交換を大切にしていける必要がある。

### 4 規範意識・共感性の育成

#### 【結果】

生徒は、「きまりやルールを守り、相手の気持ちを考えて行動している」について、肯定的な回答は全体としては約84%である。中でも3年生は、約92%である。保護者は、「学校は、決まりやルールを守る意識や相手の気持ちを考えて行動する力を育てている」について、肯定的な回答は約73%である。教職員は、「生徒の規範意識や共感性を育てるように道徳教育の充実に努めている」について、肯定的な回答は約82%である。

#### 【考察】

- 生徒に副読本を持たせることで計画的に道徳教育を推進することができた。また、特に3年生は、進路学習等で規範意識等は少しずつ強まってきていると思われる。
- 人を傷つけるからかいや思いやりのない言動については、教職員が見過ごさず、常に人権感覚を持って、相手の気持ちを想像させながら、その場その場で指導をしていく必要がある。
- 概ね学校生活の規律は守られているが、規範意識の緩みや「言われるからやる」という傾向は見受けられる。生徒に対して、規律を守ることが、安心・安全な学校生活の基礎となることを理解させるとともに、生徒自らが規律ある生活を送ろうとする意識を持てるような取組をまず学年の実態に応じて、学年内で推進していく必要がある。
- 心に響く授業を展開するために、タイムリーな教材を選んだり、学校生活の中から問題・課題を教材化する等して、心の耕しを継続していく必要がある。また、規範性を育む教材を取り入れる等の指導法を研修する必要がある。

### 5 学校行事や生徒会活動等を通じた良質な人間関係づくりの推進

#### 【結果】

生徒は、「学校行事や生徒会活動に積極的に参加している」について、肯定的な回答は全体としては約84%である。中でも1年生は、約94%である。保護者は、「学校は、学校行事や生徒会活動を通して助け合い交流する場を多く設定し、よりよい人間関係づくりに努めている」について、肯定的な回答は約81%である。教職員は、「学校行事や生徒会活動等を通して生徒同士の良質な交流の場を多く設定し、良質な人間関係づくりに努めている」について、肯定的な回答は約86%である。

#### 【考察】

- 3年生は、最高学年として体育祭に積極的に行事参加し、学級の団結力を深め、成長をしてきた。
- 暮会での一日の振り返り活動やライフスキル教育等良質な人間関係を育む取組を行った。また、小6児童中学校体験という新しい取組を行った。
- 学校行事や生徒会活動等それぞれの取組のまとめをその都度行い、その成果と課題を生徒に返していくとともに、普段の学校生活の充実につなげていくという視点を持って学級・学年経営に努める必要がある。
- それぞれの取組の目的に応じた指導・運営を工夫していくとともに、効果的な取組ができる日課・日程の調整を行う必要がある。
- 生徒同士の良質な人間関係づくりに関する研修会を開催し、指導法の交流・改善を図っていく必要がある。

### 6 部活動の充実

#### 【結果】

生徒は、「部活動に意欲的に参加している」について、肯定的な回答は約83%、保護者は、肯定的な回答は約92%である。教職員は、「部活動指導を意欲的にやっている」について、肯定的な回答は約90%である。

#### 【考察】

- ほとんどの生徒は部活動に意欲的に参加し、人格形成において成長している。
- 教職員は、部活動での生徒の姿に対して「観る、聴く、語る」を心がけ、生徒の今を掴み指導・評価していく必要がある。
- 部活動に参加しなくなった生徒が、学校生活全体に怠学的になっている傾向があるのではないかと。年度途中の転部の規約について変更も含めて教職員が共通認識を図り、部活動に生徒が意欲的に参加していける機会を保障していく必要がある。

## 7 安心感のある学校生活

### 【結果】

生徒は、「学校生活は安心して楽しい」について、学年間の差はあるが、肯定的な回答は全体として約75%に留まる。保護者は、「子どもは安心して楽しい学校生活を送っている」について、肯定的な回答は約83%である。教職員は、「生徒が安心して楽しい学校生活を送れるように努めている」について、肯定的な回答は100%である。

### 【考察】

○多くの生徒が安心して楽しい学校生活を送っていると感じている。授業規律や協同学習の取組、学校行事の取組等を通じた良質な人間関係づくりの取組等が効果を上げていると考えられる。

●学年間の差はあるが、全体として約25%(5人に1人)の生徒は、学校生活に何らかの不安感・不快感等を感じていると考えられる。その背景には、学習活動や人間関係への不適応感の度合いの高さが推察できる。

●引き続き、授業規律の確立の取組や学級の良質な人間関係づくりの取組を継続し、生徒の学校生活への安心感を高めていく必要がある。

●日頃から生徒の声(思い)を聴いたり、配慮ある声かけをしたり、頑張っていることを肯定的に評価して伝えたりすることを行い、生徒を見守りつつ共感的な姿勢で生徒に関わっていく取組(教育相談活動)を大切にしていく必要がある。

●問題行動や対人関係のトラブル等が起こった時の迅速な状況の把握と初期対応に努めるとともに、生徒の思い(願い)と指導の道筋を大切に生徒指導を行い、生徒の学校生活への安心感や適応感を高揚させていく必要がある。

## Ⅲ まちぐるみによる教育の推進

### 1 情報発信による連携の取組

#### 【結果】

保護者は、「学校は、便りやホームページにより、情報発信に努め、よりよく連携しようとしている」について、肯定的な回答は約80%である。教職員は、「情報発信に努め、よりよく連携しようとしている」について、肯定的な回答は約81%である。

#### 【考察】

○どの学年も学年通信の定期発行に、また、進路便りや学校だよりはタイムリーな発行を行い、学校からの情報発信に努めた。

○ホームページは、タイムリーな「学校の出来事」の更新と進路便りや学校便りの掲載等を行った。

●引き続き、生徒の頑張りや良いこと等もタイムリーに情報発信していくように努める必要がある。

●様々な便りが保護者に届いていない、ホームページを見てもらえていないという懸念がある。保護者懇談会等で啓発したり、学校だよりによりホームページアドレスを掲載する等して、それぞれの情報発信の手立ての存在を理解してもらう必要がある。

●様々な便りやホームページによる情報発信が、保護者と学校を「つなぐ」よりよいコミュニケーションの手段となるように努めていく必要がある。

### 2 情報収集等による連携の取組

#### 【結果】

保護者は、「学校は、家庭訪問や地域訪問等により、情報提供や情報収集に努め、家庭や地域社会とよく連携している」について、肯定的な回答は約74%である。教職員は、「情報収集やニーズの把握に努め、家庭や地域とよりよく連携しようとしている」について、肯定的な回答は約95%である。保護者と教職員の認識に大きな差がある。

#### 【考察】

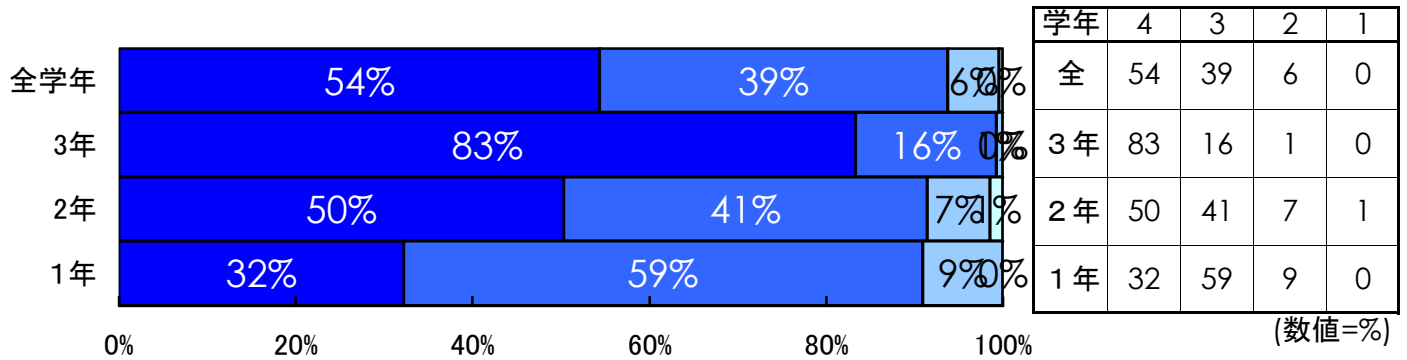
○定期的また随時の家庭訪問・地域訪問を行った。また、夏季休業中に、生徒会活動の一環として地域清掃に取り組み、地域の方々に少なからず学校(生徒)の取組を理解してもらうとともに地域に貢献することができた。

●家庭訪問や地域訪問で得た情報を校内で共有化し、家庭や地域とよりよく連携していく手立てとしていく必要がある。

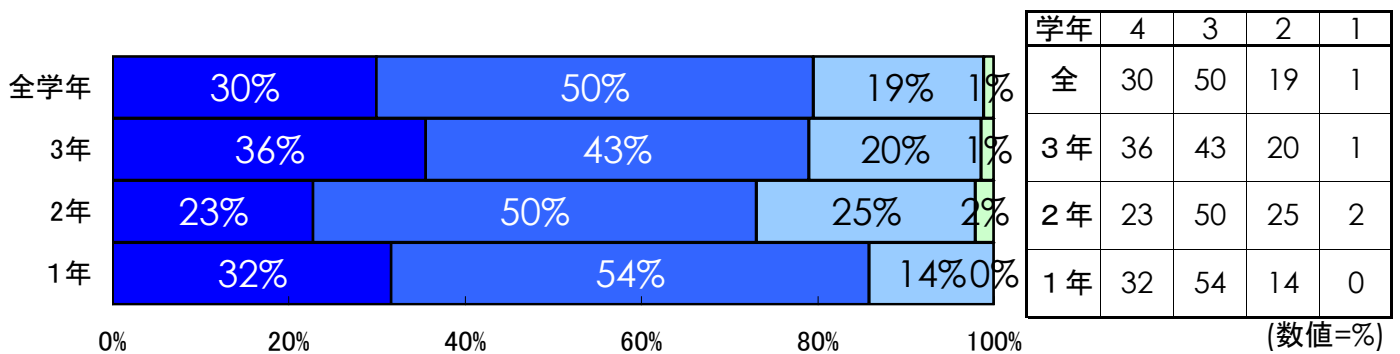
●家庭訪問・地域訪問の時間の確保に努めるとともに、こうした訪問の機会に、学校側の一方的な関わりとならないように、双方向のコミュニケーション(情報発信と情報収集)に留意していく必要がある。

## 学校評価の集計(生徒)

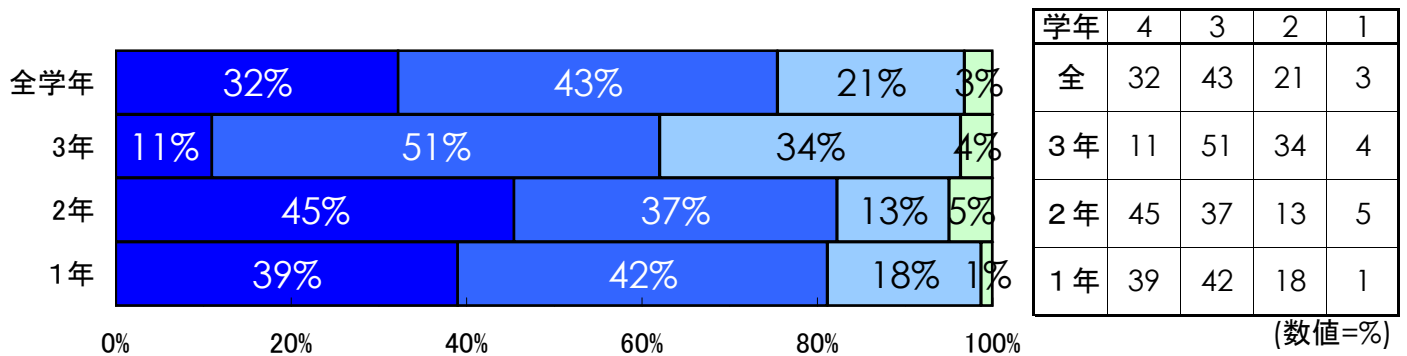
### 【設問1】 毎時間の着ベルを守っている



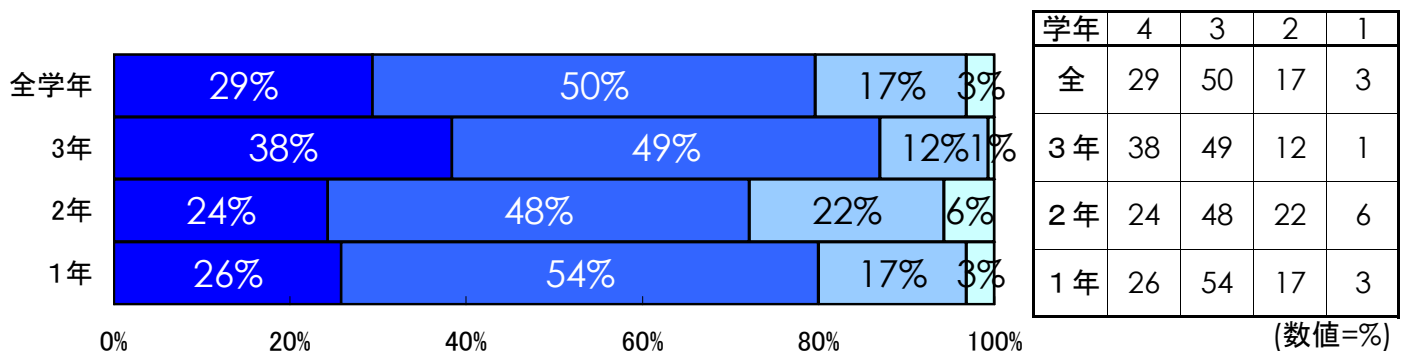
### 【設問2】 毎時間、きれいで整頓された教室で授業を受けている



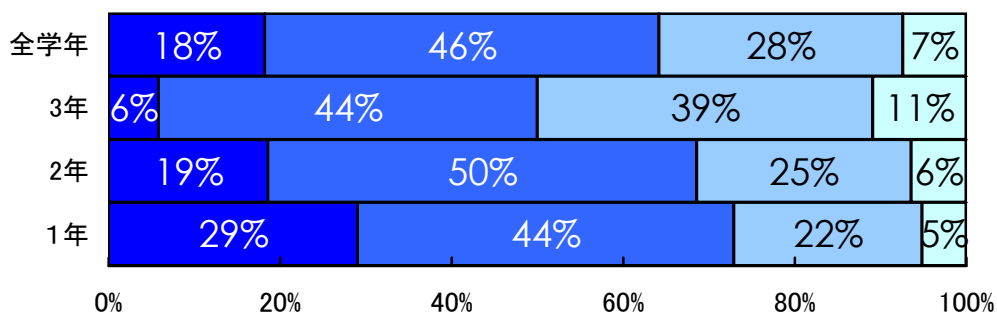
### 【設問3】 授業の始めに、その授業の「ねらい(目標)」がわかって授業を受けている



### 【設問4】 どの授業でも、ペアやグループで助け合ったり協力したりして学習する場面がある



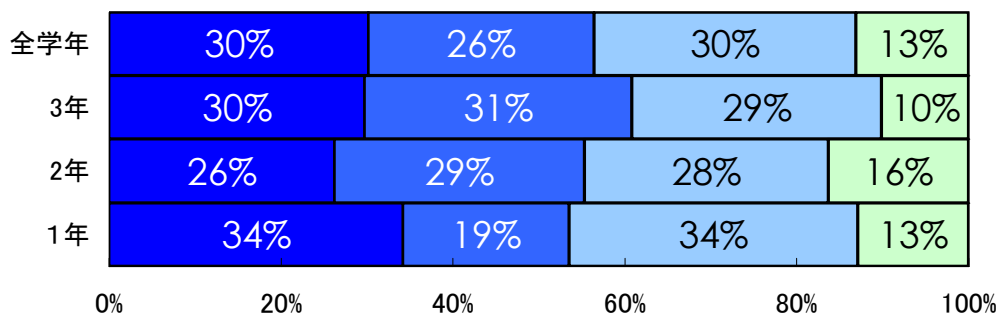
【設問5】 どの授業もわかりやすい



学年	4	3	2	1
全	18	46	28	7
3年	6	44	39	11
2年	19	50	25	6
1年	29	44	22	5

(数値=%)

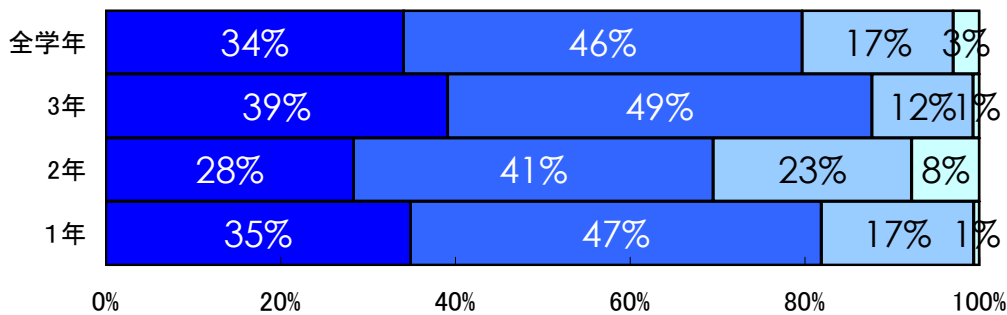
【設問6】 自主学习ノートを活用して、1日1時間以上は家庭学習をしている



学年	4	3	2	1
全	30	26	30	13
3年	30	31	29	10
2年	26	29	28	16
1年	34	19	34	13

(数値=%)

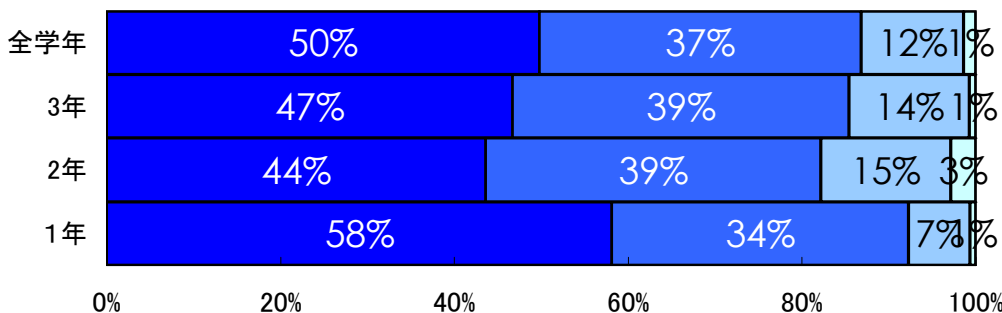
【設問7】 まじめに清掃活動に取り組んでいる



学年	4	3	2	1
全	34	46	17	3
3年	39	49	12	1
2年	28	41	23	8
1年	35	47	17	1

(数値=%)

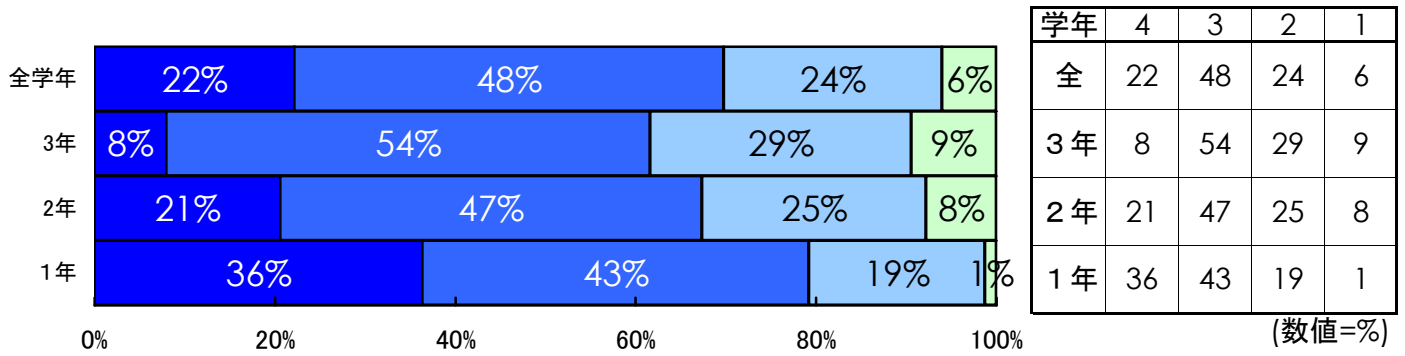
【設問8】 授業の時間も含めて、あいさつをしている



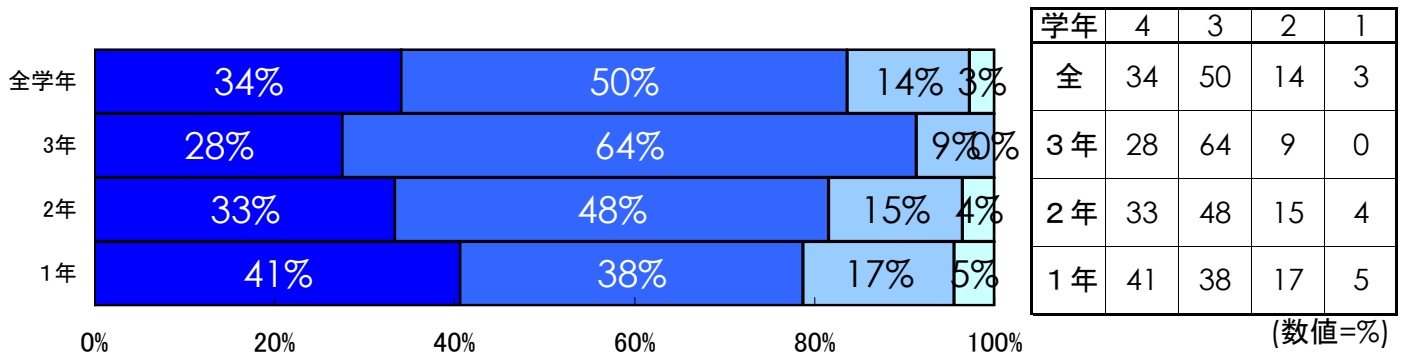
学年	4	3	2	1
全	50	37	12	1
3年	47	39	14	1
2年	44	39	15	3
1年	58	34	7	1

(数値=%)

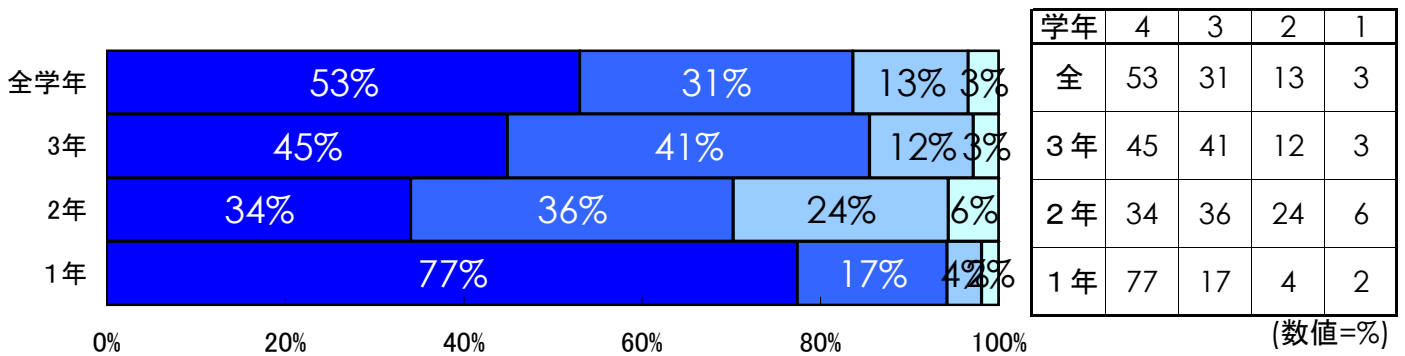
【設問9】 先生は、自分のことをわかってくれようとしている



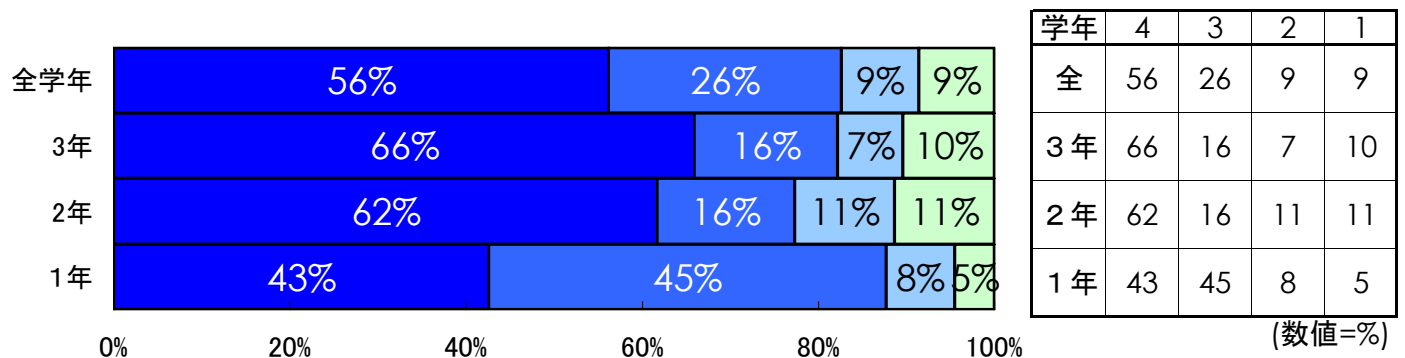
【設問10】 きまりやマナーを守り、相手の気持ちを考えて行動している



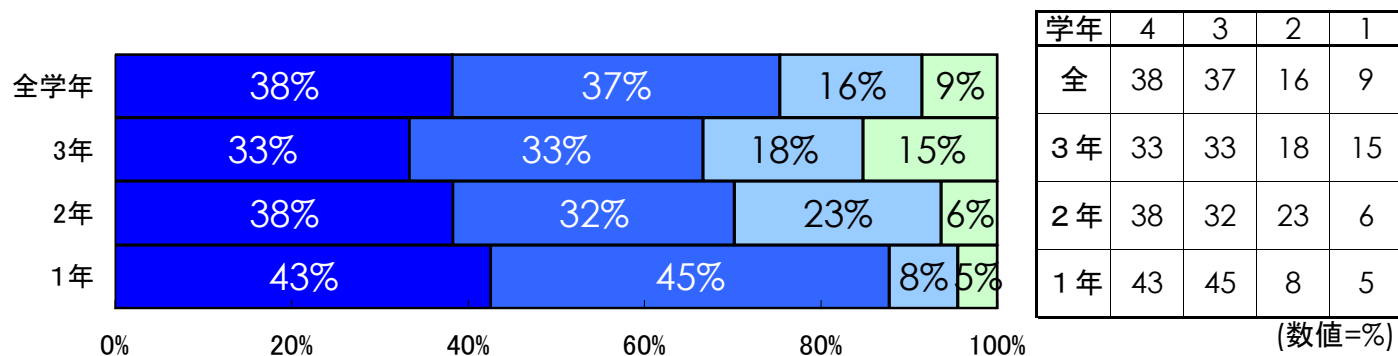
【設問11】 学校行事や生徒会活動に積極的に参加している



【設問12】 部活動に意欲的に参加している



【設問13】 学校生活は、安心して楽しい



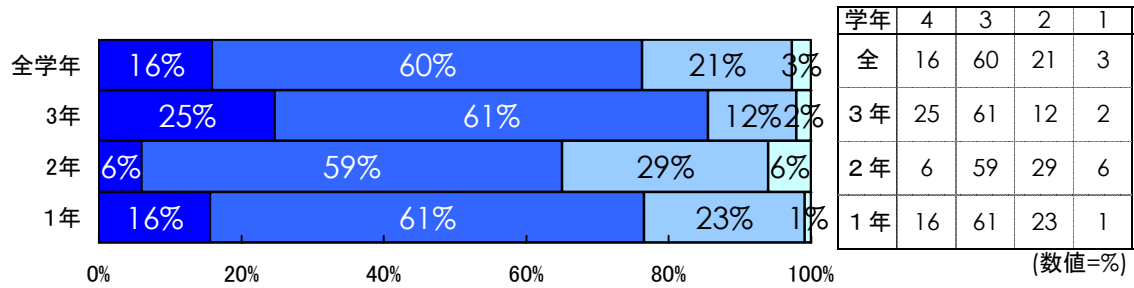
評価指数  
 A : そう思う…+2 B : ほぼそう思う…+1  
 C : あまりそう思わない…-1 D : 思わない…-2

\* 回答者数および評価指数

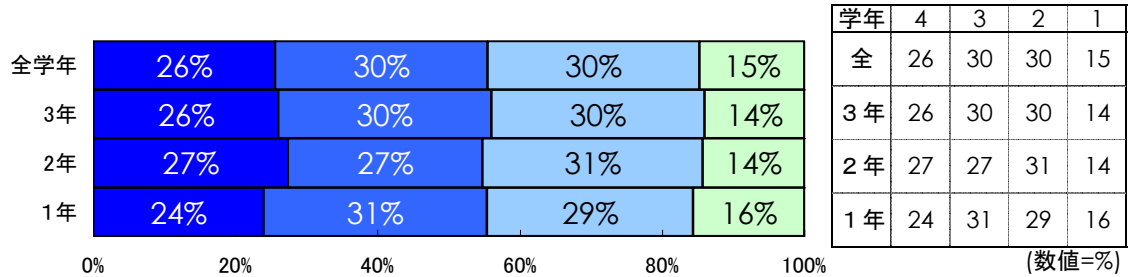
設問	回答者数(人)				評価指数(平均)			
	1年	2年	3年	全学年	1年	2年	3年	全学年
1	155	141	138	434	1.1	1.3	1.8	1.4
2	155	141	138	434	1.0	0.7	0.9	0.9
3	154	141	137	432	1.0	1.0	0.3	0.8
4	155	140	138	433	0.8	0.6	1.1	0.9
5	155	140	138	433	0.7	0.5	-0.1	0.4
6	155	141	138	434	0.3	0.2	0.4	0.3
7	155	141	138	434	1.0	0.6	1.1	0.9
8	155	140	137	432	1.4	1.1	1.2	1.2
9	154	141	138	433	0.9	0.5	0.2	0.6
10	155	141	138	434	0.9	0.9	1.1	1.0
11	155	141	138	434	1.6	0.7	1.1	1.2
12	155	141	135	431	1.1	1.0	1.2	1.1
13	155	141	138	434	1.1	0.7	0.5	0.8

## 学校評価の集計(保護者)

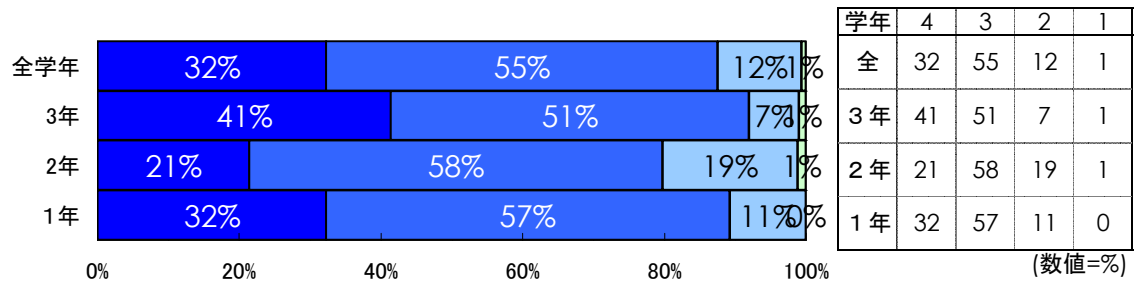
【設問1】 学校は、授業の中で生徒同士が助け合ったり協力し合ったりする活動を取り入れるなど、わかる授業づくりに努めている



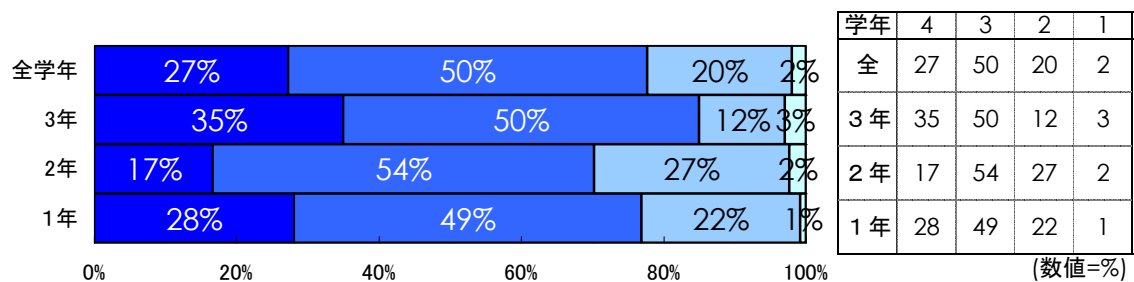
【設問2】 子どもは、自主学习ノートを活用し、1日1時間以上は家庭学習に取り組んでいる



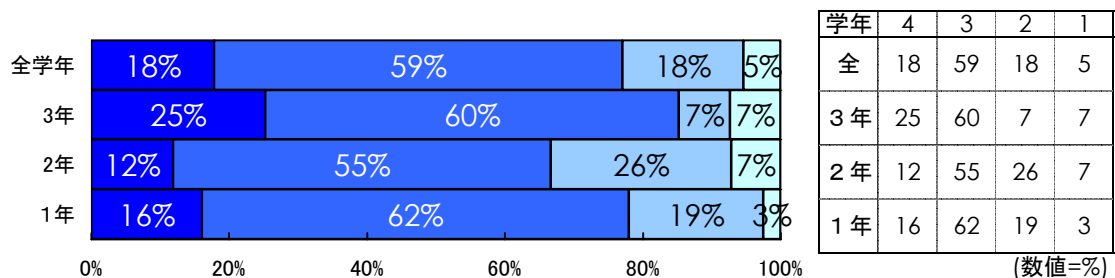
【設問3】 校内は、清掃活動や環境美化の取り組みが行き届き、きれいである



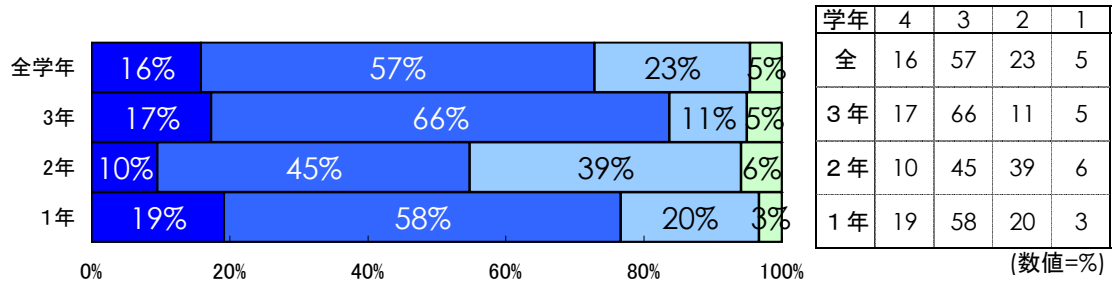
【設問4】 子どもたちは、よくあいさつをする



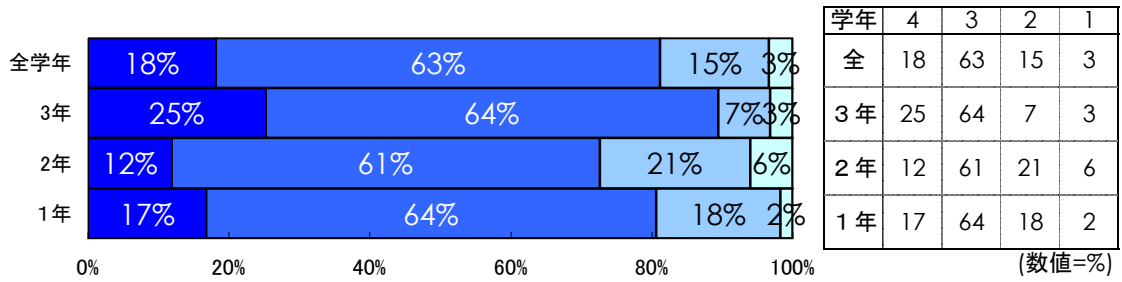
【設問5】 学校は、生徒のことを理解しようとし、生徒との温かい人間関係作りに努めている



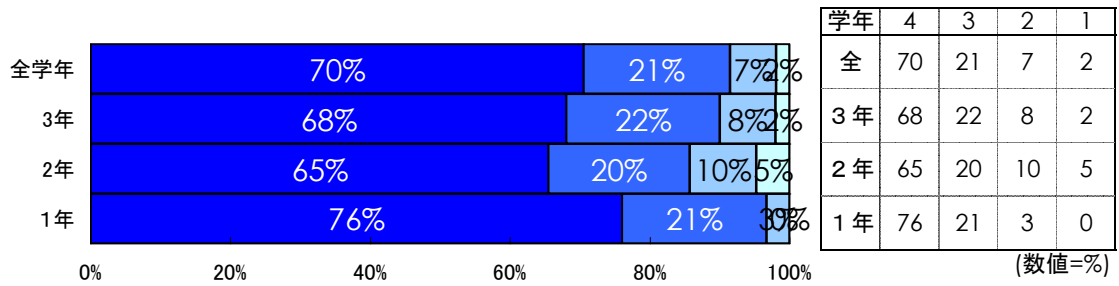
【設問6】 学校は、子どもたちにきまりやマナーを守る意識や、相手の気持ちを考えて行動する力を育てている



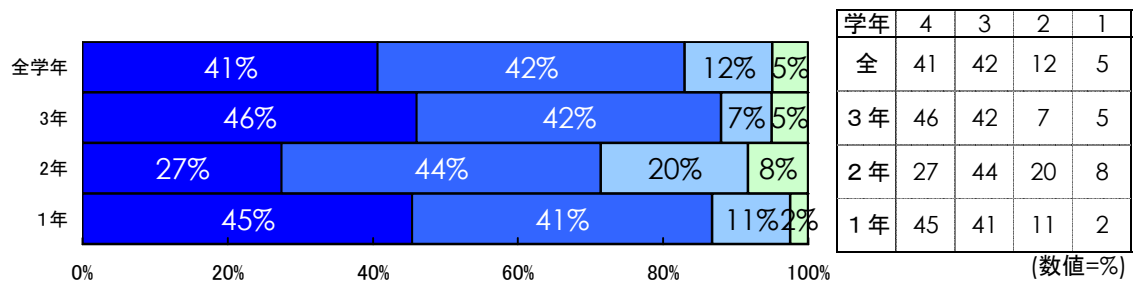
【設問7】 学校は、行事や生徒会活動を通して、生徒同士が助け合い交流する場を多く設定し、より良い人間関係作りに努めている



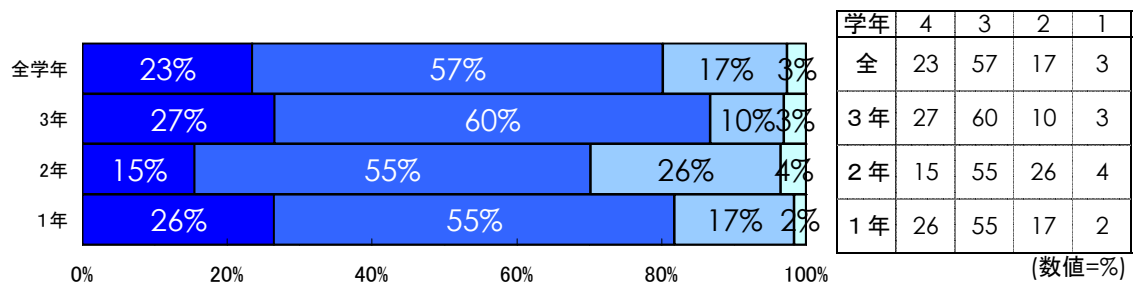
【設問8】 子どもは、部活動に意欲的に参加している



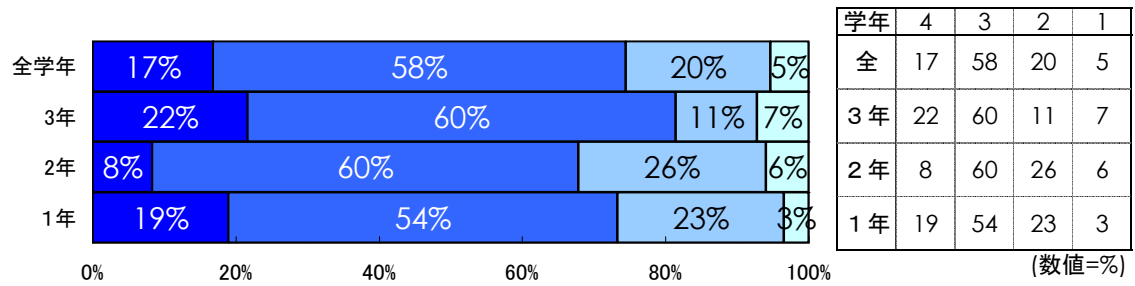
【設問9】 子どもは、安心して楽しい学校生活を送っている



【設問10】 学校は、お便りやホームページにより、情報発信に努め、よりよく連携しようとしている



【設問11】 学校は、家庭訪問や地域への訪問等により、情報提供や情報収集に努め、家庭や地域社会とよく連携している



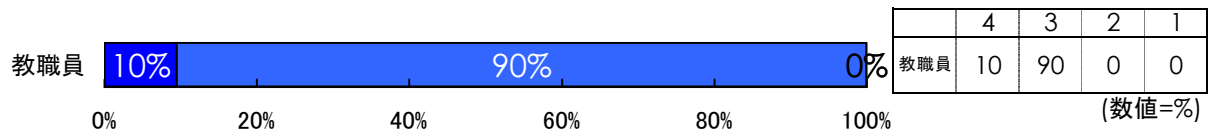
評価指数  
 A：そう思う…+2 B：ほぼそう思う…+1  
 C：あまりそう思わない…-1 D：思わない…-2

\* 回答者数および評価指数

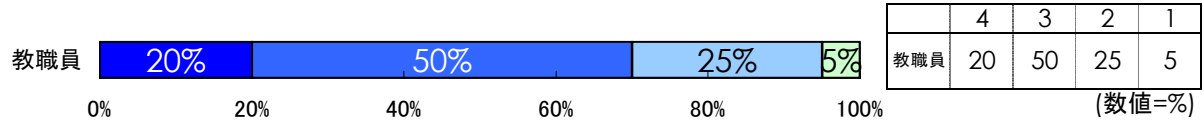
設問	回答者数(人)				評価指数(平均)			
	1年	2年	3年	全学年	1年	2年	3年	全学年
1	115	83	97	295	0.7	0.3	0.9	0.7
2	121	84	100	305	0.2	0.2	0.2	0.2
3	121	84	99	304	1.1	0.8	1.2	1.1
4	121	84	100	305	0.8	0.5	1.0	0.8
5	118	84	95	297	0.7	0.4	0.9	0.7
6	120	84	98	302	0.7	0.1	0.8	0.6
7	119	84	95	298	0.8	0.5	1.0	0.8
8	121	84	100	305	1.7	1.3	1.5	1.5
9	121	84	100	305	1.2	0.6	1.2	1.0
10	121	84	98	303	0.9	0.5	1.0	0.8
11	116	84	97	297	0.6	0.4	0.8	0.6

## 学校評価の集計(教職員)

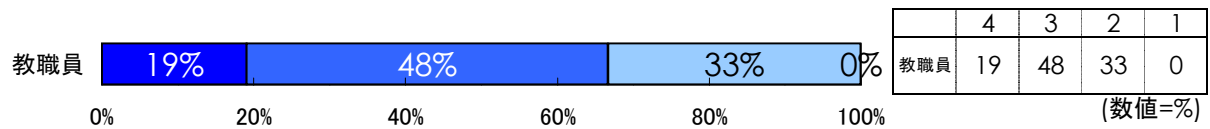
【設問1】 授業でのはじめ・終わりのあいさつ、着ベル、机・椅子の整頓などの学習環境整備など授業規律・規範について、毎時間の授業の中で指導・評価している



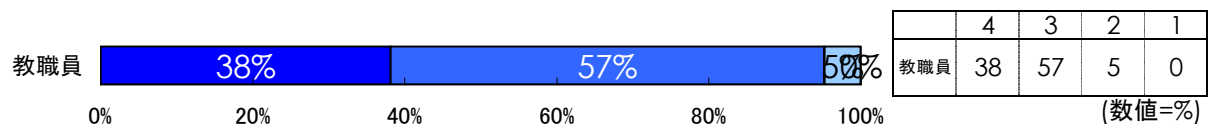
【設問2】 授業のはじめに、本時の「ねらい」を明示している



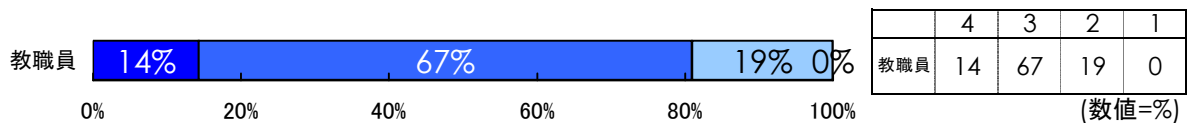
【設問3】 授業の中で、場面に応じて、ペアやグループによる協同的な学び合いの場を設定している



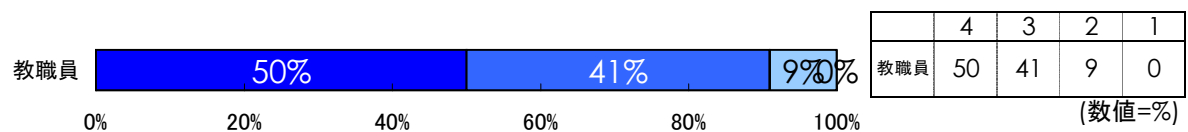
【設問4】 わかる授業になるように工夫している



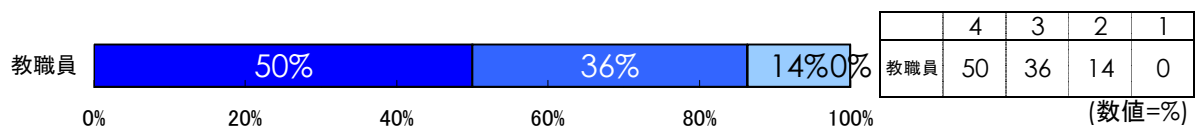
【設問5】 自主学习ノートを活用し、一日1時間以上の家庭学習の定着を図っている



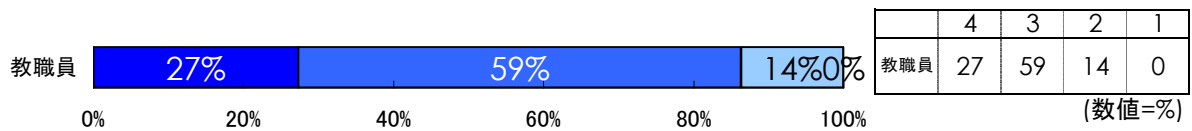
【設問6】 日々、生徒と一緒に清掃に取り組むなど教室(校内)環境美化に努めている



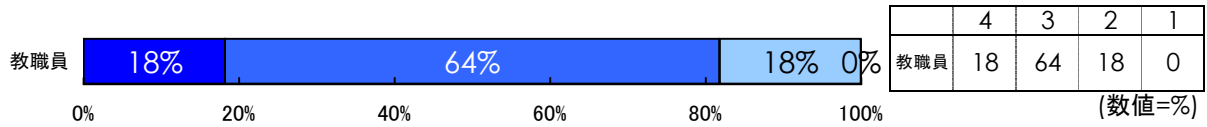
【設問7】 日々、自ら、生徒に対してあいさつをするとともに、あいさつについて、生徒に対して指導をしている



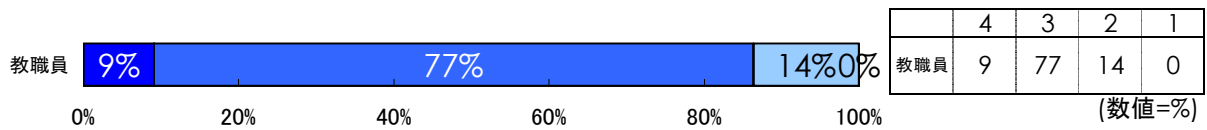
【設問8】 日々、生活ノート等を活用するなどして一人一人の生徒と教育相談活動を行い、共感的な生徒理解と生徒との温かな関係づくりに努めている



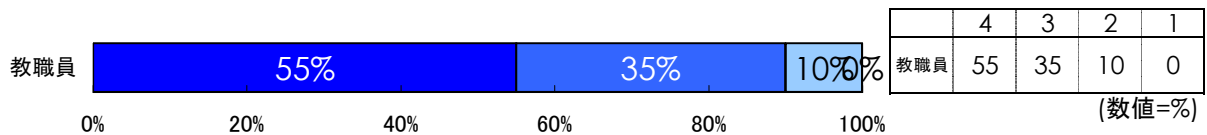
【設問9】 すべての教育活動において、生徒の規範意識や共感性を育てるように、道德教育の充実に努めている



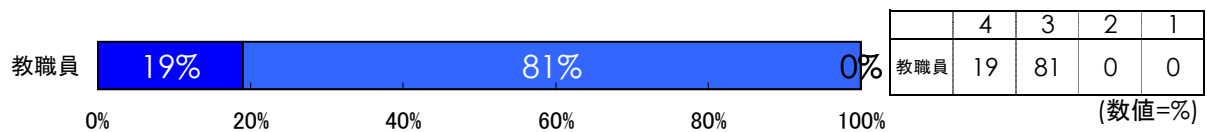
【設問10】 学級活動、学校行事の取組、生徒会活動等を通して、生徒同士の良質な交流(コミュニケーション)の場を多く設定し、良質な人間関係づくりに努めている



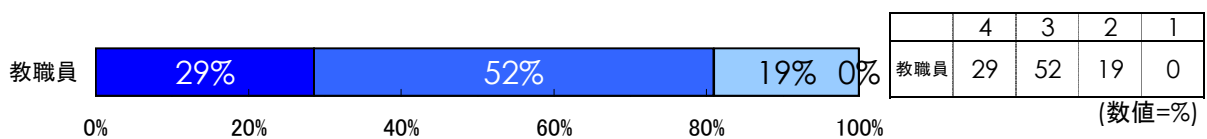
【設問11】 部活動指導を意欲的に行っている



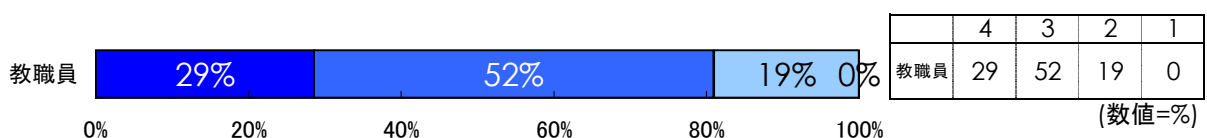
【設問12】 生徒間のトラブルやいじめ、暴力行為、不登校等を未然に防止するよう取り組み、生徒が安心して楽しい学校生活が送れるように努めている。



【設問13】 学級通信や学年通信、学校だよりやホームページの随時の更新等により情報発信に努め、よりよく連携しようとしている。



【設問14】 家庭訪問や地域訪問等により情報収集やニーズの把握に努め、家庭や地域とよりよく連携しようとしている。



評価指数  
 A: そう思う…+2 B: ほぼそう思う…+1  
 C: あまりそう思わない…-1 D: 思わない…-2

\* 回答者数および評価指数

設問	回答者数 (人)				評価指数 (平均)			
	教職員				教職員			
1	21				1.1			
2	20				0.6			
3	21				0.5			
4	21				1.3			
5	21				0.8			
6	22				1.3			
7	22				1.2			
8	22				1.0			
9	22				0.8			
10	22				0.8			
11	20				1.4			
12	21				1.2			
13	21				0.9			
14	21				1.3			